



乳汁に含まれるPAGを利用した牛の妊娠確認検査

事例の概要

- 北海道浜中町の釧路管内浜中町農業協同組合では、2017年からPAG検査を導入。当初は乳検加入者を対象とし、費用を助成する形で弊社の検査サービスを利用開始。
- 翌年から検査キットの販売開始に合わせ検査機器を導入し、独自に検査を開始。
- PAG検査を希望する酪農家で、乳検加入者であれば乳検サンプルを利用し①人工受精後28日目以降の検査のほか、②60～80日、③100～120日、④200～220日の希望するタイミングで検査するほか、それ以外の場合は任意のタイミングで酪農家自身が採材した乳汁で検査を実施。
- 検査結果はFAXもしくはスマートフォン(PDFファイル)により使用者に連絡するほか、パソコン、スマートフォン、タブレットから確認できる酪農情報サービスに掲載。

一般的なPAG検査使用例

PAG検査 2回 + 妊娠鑑定 1回の組み合わせ 合計 3回の実施



PAG検査3回の実施

- 人工授精後の妊娠／空胎確認日を全ての牛で同じ日数に統一したい
- 生産者様自身が人工授精師の場合

